

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471400356	事業の開始年月日	平成16年7月1日
		指定年月日	令和4年7月1日
法人名	株式会社アイ・ハート福祉サービス		
事業所名	グループホーム「足柄の春」		
所在地	(〒258-0019) 足柄上郡大井町金子3812		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員 通い定員 宿泊定員	名 名 名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計 ユニット数	18名 2ユニット
自己評価作成日	令和6年11月15日	評価結果 市町村受理日	令和7年4月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「足柄の春」では、家庭的な雰囲気の中で利用者がお互いに協力し合い、助け合いながら暮らしています。職員は、利用者一人一人の生活習慣や価値観を理解し、集団生活の中でも自分らしさを大切にしたい支援を提供しています。また、家族と協力関係を築くよう努め、家族とともに介護を行なっています。利用者、家族、職員ともに笑顔で過ごし、笑い声の絶えない毎日を送っていただいています。看取りケアの実績もあり、家族とともにあたたかく、安らかなケアを提供するよう務めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和6年11月15日	評価機関 評価決定日	令和7年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 事業所はJR御殿場線大井駅から徒歩で10分の木造2階建て2ユニットのグループホームである。小高い丘の上に立地し、晴れた日には富士山や相模湾などを眺められる。事業所の周りには桜の木など、四季折々季節の花が咲いている。また、柿、レモン、キウイフルーツも生っており、利用者が収穫している。法人は保育園も運営している。介護ロボットを導入して、利用者の立ち上がりや移乗の支援をしている。 【基本理念の職員への周知】 職員は事業所理念の1つである「ご利用者様の尊厳を大切に家庭的な雰囲気のある生活をめざします」を理解し、利用者のやりたい事、出来ることを把握し、家庭の延長で生活出来るように支援をしている。理念は玄関に掲示して出勤時に確認している。法人は、職員が携帯出来るカードも作成し、理念の周知に努めている。勤続年数が10～20年の職員もおり、利用者の生活習慣を理解し理念に沿って支援している。 【利用者の生活維持の工夫】 午前と午後には、職員が声掛けなどのサポートをしながら、動画を利用した体操や歌のレクリエーションを行っている。タオルの靴下でぬいぐるみや季節飾りを作るなど、手先を使った機能訓練を行い生活維持が出来るように支援している。 【災害時地域との連携】 事業所は24時間体制で職員がいる。災害時の避難場所として地域住民を受け入れられるよう、大井町と防災協定の締結に向けて話し合いを進めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	足柄の春
ユニット名	小春

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	足柄の春
ユニット名	春香

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の正面にホームの基本理念を掲げており、出勤時に確認できるように なっている。職員に配布している理念カードには基本理念を示し、本人の年間目標も記載している。必要時には会議の中で理念を共有し合いケアの実践につなげている。	開設時からの事業所独自の理念を昨年一部改正した。理念は玄関に掲示している。職員は理念と年間計画を記載したカードを携帯している。4つある理念のうち「ご利用者様の尊厳を大切に家庭的な雰囲気のある生活を目指します」という理念を念頭に、事業所は、安心・安全な家庭の延長と捉えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居後に近隣の友人が面会に来られることがある。コロナ前は地域のボランティアが多く来訪していたが、現在は感染予防で控えていただいている。	馬場（ばっぱ）自治会に加入している。コロナ禍前はお祭りがあった。敬老の日には利用者全員に紅白まんじゅうの贈呈がある。ボランティアの方も感染予防の為、来所していない。大井町役場の相談員が利用者状況等を確認している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前は認知症カフェ、認知症家族のつどいに参加していた。大井町社協の毎月の広報に足柄の春の事業所内容を掲げて、地域の人々にお知らせし活動を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には自治会長、福祉の会会長、ボランティアの方、町議会議員に出席していただいている。会議で居室の空き情報や行事等の報告をするとともに、利用者の生活状況についても報告し、介護保険加算の見直し等についても意見をいただいている。	運営推進会議のメンバーは福祉の会会長、自治会長、町議会議員、ボランティア、大井町福祉課職員、民生委員・児童委員、本社職員、管理者または主任で、2か月に1度、馬場自治会館で開催している。入居者の利用状況、行事や事故報告など行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大井町福祉課の担当者とは空き状況等を報告、入居相談を受けることもある。運営推進会議にも出席していただき、必要な場合は相談をしている。	けあねっとわーく会議やグループホーム情報交換会、研修会に参加し情報の共有や連携を図っている。又、日頃から大井町福祉課への連絡や、大井町社会福祉協議会、足柄上センターの担当者と必要時に連絡を取り、利用者の相談対応につなげている。コロナクラスター発生時には神奈川県からN95マスクの提供があった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	委員会を常設し現状の把握や改善のための話し合いを3か月毎に行っている。また、内部研修を行ったり、アンケート等でスタッフ自身の振り返りをして、気づきや意識づけができるようにしている。自立を妨げず、利用者本意の介護を心掛けている。	身体拘束廃止のための措置については運営規程に記載されている。「身体拘束ゼロへの手引き」があり、3か月に1度身体拘束適正化委員会を行っている。議事録も作成しているが、虐待防止委員会と一体となっている。研修はオンラインで行い、職員全員が受講し、テスト後本社で確認をしている。	身体拘束委員会と虐待防止委員会の議事録が一体で作成されていますので、それぞれに作成される事を期待致します。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を常設し、3か月毎に話し合いを行っている。ホームでのリスク課題等があるか、またこの先予測されるリスクを検討し、議論した内容を書面にし全員に周知し、防止に努めている。	高齢者虐待防止のための措置については運営規程に記載されている。虐待防止委員会を3か月に1度行っている。スピーチロック等、対応に問題があった場合は管理者や主任がその場で注意喚起を行っている。「虐待の芽チェックシート」を使い年1回、管理者、職員の意識向上を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は利用者の意思を尊重し、利用者自身が選択できるように言葉のかけ方を工夫している。成年後見制度を利用している利用者も入居しており、制度については理解している。必要場合はケース検討で共有し、管理者から家族に提案している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は管理者が対応している。契約のときは家族の不安な気持ちに寄り添い、心配なことや不安に思うことを聞き、安心していただけるよう十分な説明をしている。入居前に相談を受けた時から心配なことがあればいつでも連絡をしていただきたいこと説明している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への連絡はユニットリーダー、主任、管理者で対応している。定期的なお便りの送付のほか、必要場合は家族アンケート、運営に関しての意見等を出していただいている。	家族会はないが、家族には毎年アンケートを実施して意見を聞いている。利用者に変化がある時は、面会時または電話で様子を伝えている。2ヶ月に1度「足柄の春おたより」を送付して利用者の様子や施設の計画事項を発信している。新型コロナウイルスが5類になり、面会について家族にアンケートを実施した。家族には利用者の好きな食べ物を持参して貰っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議には法人の担当者も出席している。ユニット会議での意見、提案は管理者から法人の担当者に報告している。入居・退去、人員配置についての情報は特に密に連絡を取り合っている。	月1回リーダー会議に法人の代表者および担当者、管理者、主任、リーダーが出席して各ユニットの報告を行うとともに、業務改善や利用者の対応について話し合いを行っている。又、ユニット会議では、それぞれのユニットの利用者への対応等を検討している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、法人の担当者と面談があり、勤務日数、働き方の希望等を確認している。管理者はユニットリーダーも兼務しており、相談しやすい環境作りに務めている。	年1回法人の担当者が個人面談を行い、人事考課を行っている。健康診断は年1回（夜勤者は2回）実施している。ストレスチェックも行い、管理者は常に職員に声を掛け健康状態を確認している。有給休暇を始め、連続休暇、介護、育児休暇を整備し、シフトの配慮がある。外部研修は交通費、研修費を支給し、出勤扱いとしている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は個々で受講し、ユニット会議で振り返りをしている。職員自己評価では、年間目標を挙げている。外部の研修の案内等を掲示している。テーマによってはリーダー、管理者から研修参加を呼びかけている。	年間の研修計画があり、毎月1回自宅でオンラインで受講している。受講後のテストや報告書を作成し、ユニット会議で各自発表している。研修受講の際は時給の支給がある。職員は年間目標があり、目標に沿った研修の受講を管理者が呼びかけている。法人や管理者は、各職員の能力を把握している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	足柄上地区のグループホーム連絡会に出席し、他グループホームの取り組み等を聞く機会がある。連絡会には管理者のほか、介護主任、法人の担当者も参加することがある。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後は本人が信頼できる関係作りを念頭に置き、まずは「安心できる人」と受け入れてもらう事を第一に考えた関係作りに重点を置いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントから本人や家族の意向、要望や不安を受け止め、入居後は本人の様子を含めた連絡を多く取るようにしながら、家族の不安軽減を図り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のそのときの心身の状況等により、他のサービス利用も含めた対応を行ったことがある。必要に応じて福祉用具のサービス利用や医療サービスの対応など支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の尊厳を大切にしながらも安心して生活できる関係性の構築に努めている。「一人の生活者として」の意識づけを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中で見えてきた課題を必要に応じて家族へ報告し、共有した中で家族の考え方や思いを汲み取り、関係作りを行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は面会で馴染みの人とお会いしたり、ドライブで住み慣れた土地を見に行く等をしていたが、現在は家族のアンケートを元に感染症予防を行い制限している。	アセスメントからやりたい事、やっていた事を把握し継続支援をしている。家族と一緒に法要やお墓参りに出かける方もいる。家族が利用者の好きな食べ物を持参している。友人と一緒に、1泊2日で同窓会に出席された方がいる。馴染みの基礎化粧品を使っている方もいる。電話や手紙の取次ぎを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立したりトラブルにならない様に都度話し合ったり、必要ならば食事の席を替えている。利用者同士が関わり合いを持てるように話題を提供したり会話の橋渡しをしている（個々に合った環境の対応）		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設変更、入院等でサービスが終了した場合、必要に応じて相談、支援を継続していることを説明している。家族から連絡があった場合は傾聴し、経過を見守る等の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや希望を傾聴し、汲み取りながら関わりを持っている。困難な場面では本人の視点に立って考えるように職員間で話し合っている。また、家族からも利用者の生活歴等を聞き取り、利用者本位でケアを提供できるよう努めている。	聞き取り困難な方は選択出来る簡単な内容で聞いたり、利用者の好きな事を選択できるように、体操や歌や作り物、庭散策などの提案をしている。聞き取った意向は職員に伝え、ケアの統一をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、今までの生活で使用していたものを搬入し、そのまま使っていた。入居直後は家族との連絡を密に取り、利用者が本人らしく暮らしていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活の習慣や趣味は、入居後も継続出来るように支援し、本人の出来る事、出来る力を奪わない介助を行っていけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が出席するユニット会議により、一人ひとりの生活状況を共有、課題を話し合い、日々のケアに繋げている。短期目標の実施状況を毎日チェックし、状況に応じて見直しをしている。	アセスメントを基に計画作成担当者が作成し、居室担当者、リーダー、主任、看護師が確認し、意見を聞いている。目標は1年で見直しをしている。モニタリングは日々のケアプランチェックと記録から、計画作成担当者が3ヶ月に1回モニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違うという些細なことから、職員間での報・連・相に繋げ記録している。また状況により、ケアの見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居された利用者が入居前の日課や習慣に合わせ、大井町の図書館に通ったり、毎日散歩に出かける等、ニーズに対応した支援を行っていたが現在は環境的な理由で行っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	困難課題が生じた際、大井町介護課、大井町社会福祉協議会、足柄上福祉事務所と連携、その時に一人ひとりに必要な地域資源を把握し、豊かな生活を送ることが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームからすぐ近くにあるクリニックの医師と、2週間毎訪問診療、他24時間対応にて医療との連携を行っている。また、歯科、眼科、皮膚科などの往診、外来受診の対応をしている。	利用者全員が月2回協力医（内科）の訪問診療を受診している。又、歯科医師と歯科衛生士が月2回訪問診療をしており、眼科医の往診もある。希望者は皮膚科も受診している。医師や看護師とのやり取りは、医療連携会議の議事録に記載している。その他の専門医への受診は家族が同行し、診療報告は管理者および看護師にしている。処方薬は薬局に行き受け取り、服薬セットを行っている。看護師とは24時間オンコールでいつでも連絡が出来る。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が入職し、訪問診療のときに医師に報告することを書面で共有している。薬、利用者の状態等、報告相談をしている。また、皮膚科等専門病院の受診支援も行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、病院の地域連携室を通し情報交換や相談を行い、利用者にとってのアドボガシーを相互間で行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、早い段階から家族や主治医、施設看護師も交えて一緒に話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針の共有と、同意を得る取り組みを実施している	「重度化した場合の指針」「重度化・終末期ケア方針」は入居時に説明をしている。看取りが必要になった時は、家族、医師、管理者、主任やリーダーで話し合い、意向確認を行い同意書を貰っている。今年度は2名の看取りを行った。看取り後、家族が来所して思い出話をする機会がある	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、内部研修では緊急時の対応に関する研修を全職員受講し、主任は小田原市消防での普通救命講座で実技を1日受けている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を年2回関係機関の協力を得て実施。夜勤者は個別に火災時の避難訓練の行動シュミレーションを実施。地震時の避難訓練は各フロア個別に実施。水害時の訓練は実施していないが、水害時の対応の掲示と対応について説明している。地域との協力体制は無い。	火災・消火・通報訓練を年2回行っている。夜勤者は個別で避難訓練の行動シュミレーションを行っている。足柄の春防災LINEで緊急連絡が出来る。敷地内に備蓄倉庫があり、日付順に備蓄を整備しており、備蓄管理帳がある。暖を取る為のカセットコンロや毛布も備蓄されている。食料・飲料水等は、利用者、職員分を含め3日分を備蓄している。廊下には防災持ち出し袋があり、服薬ファイルや救急箱等を入れて避難が出来るように準備をしている。自然災害発生時におけるBCPも整備されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	距離感や言葉選びに気を付けて、利用者様一人ひとりの尊厳を大切にした対応をしている。又、居室に入る時は、声かけ、ノックをしている。	フロアでタブレットに入力する際には、テーブルを別にする等、利用者に配慮し入力している。利用者の呼称は、名字や名前に「さん」付けとしている。トイレへの声掛けは配慮した声掛けを心掛けている。個人情報事務所の鍵の掛かるキャビネットで保管している。タブレットは暗証番号で管理している。人格の尊重とプライバシー保護の研修を実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの自己決定能力に合わせ、オープンクエスチョンやクローズドクエスチョンで様々な引き出し方をしている。また各担当職員が個別的な関りの中で自己決定が出来るように行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活に必要な身支度はできる限りご自分で行っていただき、状況によっては声かけや介助を行っている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみのひとつ。一人ひとりの食事の形態が異なる為、その方に合わせて提供している。食事の配膳や下膳等は出来る利用者様にお願いすることもある。	朝食は湯せんで調理しているが、昼食、夕食は各フロアごとに職員が手作りに提供している。食材は業者から仕入れており、献立は業者の管理栄養士が作成している。利用者はテーブル拭き、下膳、お皿を洗ったり等、出来る事を手伝っている。お正月はメニューから好きな物を選び出前やおせちを頼んでいる。誕生日にはケーキを買ってお祝いをしている。敬老の日には馴染みの魚屋で新鮮な魚を仕入れ、海鮮丼を作って提供しとても喜ばれた。管理栄養士が月1回来訪する。食事形態や嚥下機能等を報告し、必要な場合はアドバイスを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分表を記録しスタッフ間で共有している。一人ひとりの状態に応じた声かけや食事介助を行っている。外部の栄養ケアステーションから食事、栄養に関するアドバイスを基に、栄養バランスを反映した提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居時に訪問歯科受診の意向を確認し、希望する場合は訪問歯科のケアを受け、口腔内の汚れや歯磨き等のケアについて個別にアドバイスをいただくほか、口腔衛生に関するアドバイスを受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を確認し、一人ひとりの排泄のパターン、習慣を把握し、必要な時はトイレ誘導、一部介助等をして排泄の自立に繋げている。また、夜間の排泄では、おむつや紙パンツでの対応だけでなく、ポータブルトイレを設置し、トイレの自立支援を行っている。	排泄表でパターンを把握し、誘導するように努めている。トイレは排泄後に職員が確認できるように工夫している。利用者に合わせて必要な場合には介助し自立に繋げている。夜間は睡眠を考慮したパットの対応を行っている。又、ポータブルトイレを使用し、自立支援を行っている利用者もいる。布パンツを使用している方がいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表やトイレ後の確認で便の量、形状をチェックしている。便秘の方には乳製品の提供や運動、マッサージ等で自立排泄を促し、必要に応じて下剤を服用していただいている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調や気分を考慮し、転倒のないよう十分注意し、安全に入浴出来るよう努めている。本人が出来る事はやっていただき、気持ち良く入れるように温度調節、浴室内の確認、毎日違う入浴剤を使用する等を工夫し、楽しんでもらえるよう声かけをしている。	入浴は午前中で、週2回を目安にしている。3回入浴する方もいる。入浴拒否の利用者には声掛けの工夫や順番の変更、職員や日時を変えるなど、無理なく入浴を促している。浴室暖房や脱衣所にはヒーターを設置し、ヒートショック対策をしている。入浴剤やゆずを入れて季節を楽しんでいる。家族の持参した好みのシャンプー、トリートメントを使用し、個々の要望にも柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	スタッフ間で情報共有し、一人ひとりの状況に応じた対応を心がけている。昼夜逆転しないように、体操や廊下歩行の声掛けやレクリエーション等を行っている。また、昼食後は居室で休む方もおり、一人ひとりの生活習慣を把握し、個別対応の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事表は職員がいつでも確認できるところに保管している。薬の変更、追加等がある場合は、看護師から報告、指示がある。食事、病状等により服薬をしないケースがあるが、看護師の指示のもとで判断している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや洗濯物たたみ、テーブル拭き、食事の配膳、下膳、調理の手伝いなどの役割や、外気浴や歌、体操、廊下歩行などで気分転換の支援を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム近辺を含め、大井町での野生動物の出没があり、散歩等は安全を優先して中止している。本人、家族の希望でリハビリ施設に通っている方がおり、季節感を感じていただけるよう桜並木をドライブしたりしている。	近隣では野生動物の出没があり、現在は散歩を行っていないが、庭先にあるベンチでの外気浴や草木や花の水やり、果物の収穫を行っている。ドライブを兼ねて、紅葉狩りや、桜の花見に出かけている。家族と一緒に外泊したり、お墓参りや買い物に行っている。友人と外泊旅行をしている方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の契約内容の中では、貴重品や刃物等の持ち込みは禁止となっている為、ほとんどの利用者はお金の所持はないが、よくあったケースで「孫にお小遣いを渡したい」という希望時には家族へ説明し、同意を得て渡せるように柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から利用者宛てに手紙が来た際は、返事を書く支援を行い、遠方の家族に電話したいと希望がある時は、本人自ら電話をかけている。かけられない場合は、職員がかけて渡すなどの支援を実施している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高齢者であることを気に留め、まぶしさ、騒音を感じないように、カーテン・テレビの音量に注意して椅子の位置を移動し、壁面には季節毎に一緒に作成した飾りを掲示し、季節感を採り入れるように工夫している。	リビングは広く、車椅子の動線は確保されている。天井は高く窓も大きいため、採光も良く明るい。また富士山のほか、地元の街並みが見え眺めがよい。室温はエアコンや加湿器、カーテンで調節し、窓開けで換気をしている。壁には利用者と職員が折り紙で作成した季節の飾りつけを施している。午前、午後は動画での体操や歌を歌ったりぬいぐるみを作成するなど、各々が思い思いに過ごしている。季節の花が飾られており、利用者の誕生日には花が届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファがあり、気の合った利用者同士で会話を楽しんだり、一人でゆったり過ごしたり、自分の部屋で独りでTVを観たり、日記をつける等、その方に合った過ごし方ができるよう支援している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗濯物を収納するとき、できるだけご本人と一緒に入れるようにしている。また、ご家族から室内への置物や馴染のものを持参していただき飾っている。また、レクリエーションで自作した絵や工作等を居室に置いて楽しんでもらっている。	居室ではテレビを見たり、家族持参のおやつを食べたり、日記を付けたりして、ゆっくり過ごしている。エアコン、防災カーテン、照明器具が備え付けてある。ベッドやたんすなどの自宅で使っていた家具を持参し、写真やぬいぐるみ、季節の飾りを置いて、自宅で過ごしていた環境に近づけるよう工夫をしている。残存機能を活かして洗濯物を畳んだり、簡単な掃き掃除の家事支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来ることや興味のあることは、積極的に提供している。また、自分から訴えの無い方へも興味が持てそうな事や出来ることを見つけ、提供するようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム「足柄の春」

作成日 令和7年3月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		自然災害発生におけるBCPに沿った訓練計画の実施	BCPが発動されてから対応が一段落つくまでの流れをすべて実施する。緊急事態発生直後から収束までを通して訓練を行い、時間経過によって発生する課題や実施すべき対応がどのように移り変わっていくかを具体的にイメージする。	はじめに社員5名で取り組み、対応の流れを実施後、パート職員の中に社員も入りナビゲートしながら対応の流れを行う。職員全員が訓練に参加するまでシフトに訓練計画日を入れていく	6ヶ月～10ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。